

# 熊楠ワークス

/ C / O / N / T / E / N / T / S /

## 第14回南方熊楠賞授賞式

1面

 vol  
24

### 熊楠賞受賞記念講演

「南からの日本文化—新・海上の道を考える—」

佐々木高明氏 2~13面

熊楠ゆかりの地を訪ねる22

闘雞神社 中瀬喜陽氏 14面

トピックス 15~17面

- ・南方熊楠頭影館着工
- ・熊楠邸の蔵書目録刊行
- ・牟婁新報の復刻版刊行
- ・「南方二書」原文を寄贈
- ・龍谷大学特別展示「南方熊楠の森」

今年の7月1日に「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界遺産に登録されましたが、道の世界遺産はスペインのサンティアゴ巡礼道について世界で2番目です。

5年程前にサンティアゴを目指して5日間ほどですが寝袋をかついで歩いた時には、出会った地元のテレビ局のアナウンサーでさえ、姉妹提携をしている「熊野古道」の名前は知らないようでした。今なら耳にされているでしょうか？

世界遺産に登録されたことで「わかやま絵本の会」が出しているイラストマップ『いっしょに歩こう熊野古道』が大いに売れて、増刷をしないといけなくなり、先日地図のチェックに回ってきました。

結果、同じ熊野に向かう道なのに、世界遺産に登録されたところとそうでないところに違いが見られました。登録されていないところは、高速道路が延長されたこともあり車優先になって、車で「王子社詣り」ができるかと思うくらいに山奥まで舗装が進められていました。歩く人にとっては、舗装道はとて足にこたえるのです。反対に登録された道には案内板が増え、トイレも新設され、かえって足に辛い階段なども作られていました。続いた道なのに途切れ途切れに登録されるなんて、あかしなことです。熊楠先生があらわれたなら、こんな現象をなんて言われるだろうかと、時代の変わり目になると、特に「南方熊楠」が俵ばれるワタクシなのです。

